

日本都市計画学会

学 会 賞

特別功労表彰 功績賞・国際交流賞

2015年 年間優秀論文賞

受賞一覧ならびに授賞理由書

公益社団法人

日本都市計画学会

目 次

1. 学会賞

1) 受賞者・受賞作品	1
2) 選考経過	2
3) 授賞理由	
(1) 石川賞・石川奨励賞	3
(2) 論文賞・論文奨励賞	5
(3) 計画設計賞・計画設計奨励賞	8

2. 特別功勞表彰 功績賞・国際交流賞

1) 受賞者	11
2) 選考経過	12
3) 授賞理由	
(1) 功績賞	13

3. 2015年 年間優秀論文賞

1) 受賞論文	15
2) 選考経過	16
3) 授賞理由	17

日本都市計画学会 学会賞受賞者・受賞作品

(受賞者敬称略)

<石川賞>

水都大阪のまちづくり

水と光のまちづくり推進会議、一般社団法人水都大阪パートナーズ、
水と光のまちづくり支援本部（水都大阪オーソリティ）、橋爪 紳也、嘉名 光市
コミュニティを主体とする「回復力の高い復興計画」の立案と復興まちづくりの実現
宮城県岩沼市長 菊地 啓夫、玉浦西地区まちづくり住民協議会会長 中川 勝義、
中央大学理工学部教授 元岩沼市震災復興会議議長 石川 幹子
福岡天神におけるまちづくりガイドラインに基づくエリアマネジメント
We Love 天神協議会、一般社団法人 We Love 天神、西日本鉄道株式会社、出口 敦、後藤 太一

<石川奨励賞>

人と公共交通優先の歩いて楽しいまちづくり「四条通歩道拡幅事業」

京都市

<論文賞>

中東・北アフリカ地域の都市計画技術協力史に関する一連の研究

松原 康介

<論文奨励賞>

商店街活性化における活動主体の継承プロセスに関する研究

依藤 光代

多様な地域主体によるストリートデザイン・マネジメントに関する研究

三浦 詩乃

人口および世帯属性の分布と移動距離を基にしたコンパクトシティに向けた施設配置分析

鈴木 達也

都市計画制度の限界を補完する土地利用に関わる法制度に関する研究

佐藤 雄哉

関東州州計画令の土地利用規制に関する研究

五島 寧

米国のブラウンフィールド再生政策とその変遷に関する研究

-土地リスクに対する都市計画と環境保護政策の連携に着目して-

黒瀬 武史

近隣人口の社会経済的構成が地域・居住者に与える影響に関する定量的分析

上杉 昌也

復興まちづくりに火山災害遺構を活かすためのジオパークの経緯と大学の連携体制のあり方に関する研究 -島原半島ジオパーク推進連絡協議会と洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会を事例として-

石川 宏之

<計画設計賞>

都市構造可視化計画ウェブサイト

福岡県、国立研究開発法人 建築研究所、都市構造 PDCA 研究分科会
千代田区神田駿河台地区における公民一体の都市再生プロジェクトの実践

大成建設株式会社、千代田区、神田駿河台地域まちづくり協議会、東京地下鉄株式会社
札幌北3条広場を中心としたパブリックスペースネットワークの形成

-都市空間の歴史的価値を踏まえた公共空間の再編-

札幌市、三井不動産株式会社、日本郵便株式会社、小林 英嗣、株式会社日本設計
横丁からふたたび、あたらしい「マチ」をつくる

-3.11からの共同化再建プロジェクト COMICHI 石巻-

遠山 敬介、真野 洋介、野田 明宏、渡邊 享子

<計画設計奨励賞>

宮城県山元町におけるコンパクトシティを目指した復興計画策定

-札幌市による対口支援の効果的活用-

山元町、札幌市、株式会社オオバ、鈴木 光晴、星 卓志

日本都市計画学会

学会賞 選考経過

2015 年度学会賞は、会員が推薦した石川賞候補 4 件、石川奨励賞候補 1 件、論文賞候補 2 件、論文奨励賞候補 11 件、計画設計賞候補 8 件、計画設計奨励賞候補 1 件、計 27 件が審査の対象となった。

表彰委員会（学会賞選考分科会・委員全 15 名）は各々の候補の業績について複数の担当審査委員が独立に査読および調査を実施し、各委員から提出された評価にもとづき、分科会で慎重に検討の結果、授賞候補を選定した。

特に評価の分かれた案件については委員会席上でその結果を照合、討論、協議し、分科会の最終審査結果とした。さらに分科会の審査結果を理事会に諮って、石川賞 3 件、石川奨励賞 1 件、論文賞 1 件、論文奨励賞 8 件、計画設計賞 4 件、計画設計奨励賞 1 件の授賞を決定した。

(参考)各賞の授賞対象

石川賞

都市計画に関する独創的または啓発的な業績により、都市計画の進歩、発展に顕著な貢献をした個人または団体を対象とする。

石川奨励賞

都市計画に関する独創的または啓発的な業績により、今後の都市計画の進歩、発展に寄与しうる貢献をした個人または団体を対象とする。

論文賞

都市計画の進歩、発展に顕著な貢献を認められる研究論文を近年（概ね過去 3 年以内）発表した会員（個人）を対象とする。

論文奨励賞

都市計画に関する将来性・発展性が顕著な研究論文を最近（過去 1 年以内）発表した会員（個人）を対象とする。

計画設計賞

都市計画に関する計画、設計、事業などに関する近年（概ね過去 3 年以内）の作品で、都市計画の進歩、発展に顕著な貢献をしたものを対象とする。

計画設計奨励賞

都市計画に関する計画、設計、事業などに関する近年（概ね過去 3 年以内）の作品で、将来性・発展性のある優れたものを対象とする。

石川賞	
受賞者	水と光のまちづくり推進会議、一般社団法人水都大阪パートナーズ、 水と光のまちづくり支援本部(水都大阪オーソリティ)、橋爪紳也、嘉名光市
作品名	水都大阪のまちづくり
授賞理由	<p>「水都大阪のまちづくり」は、2001年の都市再生プロジェクトの決定以降、産官学と地域との連携体制のもとで長年取り組まれてきた。特に2013年に設置された「水と光のまちづくり推進会議」は府・市・経済界のトップで構成される類例のない推進組織であり、その取組の成果は、水辺が観光産業を含む次代の都市インフラとして多くの可能性をもつことを可視化するとともに、多面的に今後の都市づくりにおける先鞭となるフロンティアを示したといえる。</p> <p>特に、①大阪という都市の歴史と新たな可能性を活かし、水辺のかつてない魅力を多数創出させている点、②それを実現させるために、地元の経済界を含む産官学と地域との強力な連携体制を構築・継続している点、③縦割りに分断される水辺にかかわる所管や事業、規制権限などを統合し総合的に推進している点、⑤多くの人々の協力と理解を要する中で社会実験の蓄積により新たなルールを構築している点、④持続的都市のあり方の手本となるマネジメントを実践し都市の活力を創出している点などは、今後の都市計画行政の活路を見いだす実績であり、その実践の積み重ねは、社会的にも学問的にも高く評価されるべき取組であるといえる。</p> <p>以上のことから、本取組は都市計画に関する独創的かつ啓発的な業績により、都市計画の進歩、発展に顕著な貢献をしたものとして、日本都市計画学会石川賞に値すると判断した。</p>

石川賞	
受賞者	宮城県岩沼市長 菊地啓夫、玉浦西地区まちづくり住民協議会会長 中川勝義、 中央大学理工学部教授 元岩沼市震災復興会議議長 石川幹子
作品名	コミュニティを主体とする「回復力の高い復興計画」の立案と復興まちづくりの実現
授賞理由	<p>宮城県岩沼市は、東北地方太平洋沖地震による津波で甚大な被害を受けたが、被災より5年間、行政・被災者・市民・学術研究者が協働して復興まちづくりを実施し、2015年7月19日に「まち開き」を行った。</p> <p>本プロジェクトの特質は3点あげられる。第1に、逃げる高台のない沖積平野という立地の中で迅速な学術調査を行い復興の目標となる「ランドデザイン」を被災後半年も経たない早い段階で策定したこと、第2に「被災者が自ら考え、復興まちづくりを行う」コミュニティを主体とする復興まちづくりの実践、第3に、多重防御の要となる海岸線の学術調査と「千年希望の丘」の整備、および文化的景観（居久根）の再生である。</p> <p>これらをとおして、「環境」「社会」「文化」の3つの軸からなる「回復力」の構築をスピード感を持って実現している。特に「環境の回復力」では、津波から残存した集落、社寺林、海岸林調査等から、津波に耐えうる土地利用の鍵が、1万年にわたり形成された沖積平野の微地形にあることを明らかにし、「自然立地的土地利用」を復興ランドデザインの基本に据える方針を導入したことが特筆される。</p> <p>以上の業績は、「回復力の高い（レジリエント）都市計画」という新しい領域を拓くとともに、今後、想定される東海、東南海地震における復興への備えとして、共有されるべき普遍的価値が大きいことから、都市計画の進歩、発展に顕著な貢献をしたものとして、日本都市計画学会石川賞に値すると判断した。</p>

石川賞	
受賞者	We Love 天神協議会、一般社団法人 We Love 天神、西日本鉄道株式会社、出口敦、後藤太一
作品名	福岡天神におけるまちづくりガイドラインに基づくエリアマネジメント
授賞理由	<p>We Love 天神協議会は、全国に先駆けて中心市街地のエリアマネジメントに長年にわたって取り組み、その活動内容を進化させ続けてきた。</p> <p>特筆される点は以下の通りである。①BIDを参考とした「互酬性」による会費システムを機能させたこと。②民間主導でつくられた憲章、まちづくりガイドライン、アクションプランという3層構造の「ソフトロー」の共有による持続性の高い活動を推進していること。③官民学の連携を図り多様な参加者を巻き込む仕掛けを作り上げていること。④専門家との協働により、最新の都市デザイン、エリアマネジメント手法を取り入れながら組織体制作り、イベント企画、制度設計等を効果的に進めたこと。⑤政策に結びつくような先進的活動を意識して実施していること。⑥任意団体協議会と一般社団法人との二層構造、専任スタッフのいる常設事務所設置など多様な活動を支える組織体制を構築したこと。⑦福岡という街の活力・特性とうまくリンクして成果を上げていること。</p> <p>以上の活動は、今後の都市計画の取組において、民（地域に根ざす企業、参加する市民）・官（地域自治体のみならず、国家政策とのリンク）・学（大学研究者の立場だけでなく専門家として企画運営に関与することの大切さ）のそれぞれに対し規範となるばかりでなく、各地のエリアマネジメント活動の先進的モデルとなるものであり、都市計画の進歩、発展に顕著な貢献をしたものとして、日本都市計画学会石川賞に値すると判断した。</p>

石川奨励賞	
受賞者	京都市
作品名	人と公共交通優先の歩いて楽しいまちづくり「四条通歩道拡幅事業」
授賞理由	<p>本事業は、平成11年の京都市基本構想に端を発し、平成22年の「歩くまち・京都」総合交通戦略のシンボルプロジェクトに位置付けられ、平成24年の都市計画決定を経て、平成27年に10月に完成したものである。</p> <p>京町屋等の伝統的な街並みが共存する「歴史的都心地区」にあり、京都市の有数の繁華街を構成する四条通約1.1kmの歩道を拡幅し、それに伴い車道を4車線から2車線へと減少させた。これによって四条通の歩行者と自動車のアンバランスを是正し、快適な歩行空間を構築し、まちを活性化させることに成功した。また四条通の改築にあわせて周辺の細街路の歩行環境の整備を行うなど、地元住民や商業関係者だけでなく、多くの関係者と議論を重ね、大規模な社会実験を経て合意形成を図ってきたことも特筆される。</p> <p>本事業は、各地のまちづくりに大きな影響を与える画期的なものであり、今後の都市計画に寄与する貢献をしたと認め、日本都市計画学会石川奨励賞に値すると判断した。</p>

論文賞	
受賞者	松原 康介
作品名	中東・北アフリカ地域の都市計画技術協力史に関する一連の研究
授賞理由	<p>本論文は、中東・北アフリカ地域における日本の国際協力の実績を発掘し、都市計画史を専門とする著者がここ3年で発表した学術論文を中心に、一連の研究として体系化することで、今後の日本による都市計画技術協力の展望を得ようと試みたものである。また、同地域の都市計画史の再構築も目指しておりスケールの大きい論文である。研究の方法としては、文献調査、現地での実測・観察・インタビューを丁寧に行っており、その各部分が本会をはじめとして査読付き学術論文誌に掲載され、信頼性も十分に確保されている。</p> <p>本論文が対象とする研究領域は我が国にはほとんど蓄積のない分野であり、都市計画の海外技術協力史研究としては我が国での嚆矢となるばかりでなく、世界の都市計画史研究に貢献する多大な蓄積となることは間違いなく、今後の研究の発展にも期待できる。よって本研究は、日本都市計画学会論文賞に値すると判断した。</p>

論文奨励賞	
受賞者	依藤 光代
作品名	商店街活性化における活動主体の継承プロセスに関する研究
授賞理由	<p>本研究は、商店街活性化の活動を長期的観点から捉えて、活動主体の継承の実態と継承のきっかけとなった背景、中心的な活動主体が担う主要機能の継承プロセス、その継承プロセスを推進するパーソナルネットワークの働き等を、実証的に明らかにし類型化している。さらに、変革的リーダーシップ理論を応用して、これらに考察を加えている。</p> <p>中心市街地活性化に関しては、これまでも多くの研究の蓄積があるが、それらは活性化の手法、活動内容、組織・担い手そのものに関するものがほとんどであり、本研究のような活動の継承に視点を当てたものは、先駆性がある興味深いものであり、ここで得られた知見の有用性は高く評価できる。</p> <p>今後、人口が減少していく中での商店街のあり方等、これからの研究の発展にも期待できることから、日本都市計画学会論文奨励賞に相応しいと判断した。</p>

論文奨励賞	
受賞者	三浦 詩乃
作品名	多様な地域主体によるストリートデザイン・マネジメントに関する研究
授賞理由	<p>本論文は詳細な事例調査と比較研究に基づき、「道路」と曖昧に区別されてきた、人間中心の都市空間としての「街路（ストリート）」、さらに「広場」の基礎的概念を整理し定義付けた上で、多様な地域主体が安全かつ円滑な交通機能を保持しつつ、賑わいや地域性を持った公共空間としての質を維持向上させていく「ストリートデザイン・マネジメント」という概念を提示した。ストリートデザインという時に、単に美観だけでなく、そこで起こるアクティビティに着目していること、マネジメントの評価及び方法論に踏み込んだことも評価できる。</p> <p>都市における公共空間の活用が期待される一方で、国内のストリートについての体系的な研究蓄積がない中、本研究は入念な事例調査から実態及び現行の課題を整理し、既存の法制度の課題をも明らかにしている。</p> <p>本研究によって公共空間としての街路活用とマネジメント主体育成の発展に寄与することが期待できることから、日本都市計画学会論文奨励賞に相応しいと判断した。</p>

論文奨励賞	
受賞者	鈴木 達也
作品名	人口および世帯属性の分布と移動距離を基にしたコンパクトシティに向けた施設配置分析
授賞理由	<p>本研究は、人口減少に対応した今後のコンパクトシティ化計画に関連した3つの視点から分析を行っている。第一に人口分布を詳細かつ簡便に把握するため、4分割したメッシュの人口値を推計する方法を考案し精度を確認している。第二に人口属性を考慮した分布と施設立地の関係について、単身者や若年者は食事に関する負荷を小さく出来る立地を選好し、コンビニなどといった中食購入をしやすい施設立地と重なることなどを明らかにしている。第三に人口分布を基にした都市の中心性について、p-medianを基に複数の集約拠点を想定し、拠点間の距離に着目して最適化することで拠点の数と位置を求める新しいモデルを提案している。</p> <p>以上のように本研究は、コンパクトシティ計画における移動距離や利便性といった都市空間の施設や人口の分布に着目した場合の評価指標となり得る知見を提供しており、研究の発展性も極めて高い。よって本研究は、日本都市計画学会論文奨励賞に相応しいと判断した。</p>

論文奨励賞	
受賞者	佐藤 雄哉
作品名	都市計画制度の限界を補完する土地利用に関わる法制度に関する研究
授賞理由	<p>本論文は、土地利用コントロールにおける現在の都市計画制度の限界という大きなテーマを取り上げた意欲的な研究であり、その視点としてシームレスな土地利用管理の実現という概念を提示したことは評価できる。</p> <p>具体的には、都市計画区域外の土地利用管理に関する課題を明らかにした上で、建築基準法と景観法を取り上げ、既往研究やアンケート調査等を活用して、具体的かつきめ細かな実態分析と考察を加えており、論旨に説得力がある。さらに、新たな制度論と体制論についても具体的に提案している点も評価できる。</p> <p>将来予見される都市計画区域の消滅による影響、複数の土地利用管理手法の有効性などさらなる検証が求められる点を追究することにより、今後の研究の発展が期待できる。なお、法律の理解において不正確な点の一部見られるが、全体の論旨には影響しないと考えられる。よって本研究は、日本都市計画学会論文奨励賞に相応しいと判断した。</p>

論文奨励賞	
受賞者	五島 寧
作品名	関東州州計画令の土地利用規制に関する研究
授賞理由	<p>本論文は、関東州州計画令を対象としているが、朝鮮、台湾という他の植民地に対する著者のこれまでの研究成果を活かし、植民地全体を通じた観点から都市計画法制の導入と運用の過程を明らかにしている点で、既往の研究には見られない大局的な視点を提示したという意義が認められる。</p> <p>個別の分析においては、既往の研究で触れられていない点を明らかにした上で、内地・朝鮮・台湾より先進的であったとする既往の評価に対し、具体的に反証している。また、州計画令の制定から、施行規則が定められて実際に施行されるまでの期間が長かったことについて、当時の内務省内の検討成果を反映したためであるとの指摘は、貴重な発見である。内務省内の政策スタンスや計画思想の変遷と関連付けながら、内地と植民地間、各植民地間の比較研究における今後の深化・発展が期待できる。よって本研究は、日本都市計画学会論文奨励賞に相応しいと判断した。</p>

論文奨励賞	
受賞者	黒瀬 武史
作品名	米国のブラウンフィールド再生政策とその変遷に関する研究 -土地リスクに対する都市計画と環境保護政策の連携に着目して-
授賞理由	<p>本研究は、米国を対象に、土壌汚染地（ブラウンフィールド）の再生政策の仕組みと実例を幅広く調査・研究したものである。内容は大きく2部構成となっており、前半ではブラウンフィールドの位置付け、再生政策の変遷、その実態および特徴について体系的な整理を行っている。また、後半では事例分析としてそれぞれ異なる特徴を有する Bridgeport 市、Lowell 市、Buffalo 市を取り上げ、公的支援政策も含めたそれぞれの詳細な取組内容について踏み込んだ調査を行っている。</p> <p>本研究の対象であるブラウンフィールドはわが国でも土壌汚染対策法との関連などで、近年特に注目が集まっている。その反面、具体的な研究事例が少ない状況にある。本論文には自治体の関わり方や公的支援の仕組み、計画技法の組み合わせ、情報提示のあり方など、今後の都市再生の展開を考えていく上で極めて重要な示唆が数多く含まれており、今後の発展可能性も高い。</p> <p>よって本研究は、日本都市計画学会論文奨励賞に相応しいと判断した。</p>

論文奨励賞	
受賞者	上杉 昌也
作品名	近隣人口の社会経済的構成が地域・居住者に与える影響に関する定量的分析
授賞理由	<p>本研究は、近隣居住者の所得構成が施設立地特性、居住者の主観的評価、地域の価値に及ぼす影響について、それぞれ異なる観点から居住者の多様性が指摘される東京都区部を対象に検証している。まず、従来よりも詳細な空間単位での小地域推計手法を提案し、近隣分析における小地域データの応用可能性について検討した上で、これまでデータ等の制約から困難であった居住者階層による近隣スケールの重要性の違いや影響の非対称性について定量的に分析している。以上のように本研究は、将来予想される都市における居住人口の多様化やコンパクト化への適切な誘導を考慮する上で、居住者層や地域に即した望ましい居住地人口バランスのあり方などの居住政策に有効な示唆を与えるものであり、研究の発展性も極めて高い。</p> <p>よって本研究は、日本都市計画学会論文奨励賞に相応しいと判断した。</p>

論文奨励賞	
受賞者	石川 宏之
作品名	復興まちづくりに火山災害遺構を活かすためのジオパークの経緯と大学の連携体制のあり方に関する研究 -島原半島ジオパーク推進連絡協議会と洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会を事例として-
授賞理由	<p>本論文は、火山災害で被災した長崎県の島原半島と北海道の洞爺湖有珠山エリアにおいて、被災体験の伝承と観光振興を図るための災害遺構の保存および観光資源化のプロセス、災害遺構を活かすための産学官民からなるジオパーク推進協議会の役割と、ジオパーク活動からみた大学や博物館との連携体制を明らかにしている。そして、研究教育機能を用いて復興まちづくりに取り組む大学・博物館とジオパーク推進協議会の連携のあり方を提言し、大学・博物館がジオパーク活動に参画することで、地域活性化を図れることを示している。</p> <p>論証に用いるデータ・資料の収集を詳細にわたって行い、整理、分析も十分行われている。また、提案、提言も踏み込んだ内容となっており、今後の災害復興に示唆を与える有用な研究である。さらなる発展性が期待できることから、日本都市計画学会論文奨励賞に相応しいと判断した。</p>

計画設計賞	
受賞者	福岡県、国立研究開発法人 建築研究所、都市構造 PDCA 研究分科会
作品名	都市構造可視化計画ウェブサイト
授賞理由	<p>本業績は、市民が主体となる地域づくりや都市計画・マネジメントという時代の要請に合致した、地域情報の有効活用を可能にするシステムの開発である。具体的には、各省庁や自治体等から提供されている統計情報の中から、都市構造の把握に必要なデータを地図上に3次元で表示し、都市構造が一目でわかるように可視化するものである。特徴は、日本全国自治体すべてを対象としたきわめて高い操作性にて、その成果を無料で享受することができることである。評価すべき点として、既存の膨大な行政内部データを可視化できるシステムであり、その社会貢献性が極めて高いこと、都市計画分野における新たな ICT 技術を活用して推進することが可能であることがあげられる。</p> <p>以上のことから、本システムは今後の都市計画の進歩、発展に大きく貢献するツールを提供するものといえ、日本都市計画学会計画設計賞に値すると判断した。</p>

計画設計賞	
受賞者	大成建設株式会社、千代田区、神田駿河台地域まちづくり協議会、東京地下鉄株式会社
作品名	千代田区神田駿河台地区における公民一体の都市再生プロジェクトの実践
授賞理由	<p>本事業は、民間事業者による開発でありながら、都市再生特別地区制度を活用して、敷地の枠を超えたまちづくりの視点を持って、都市の再生に取り組んだものである。</p> <p>このプロジェクトの実施にあたっては、事業者が地元行政、地域の協議会と一体となって議論し、その成果を具現化してきた。すなわち、オープンスペースの確保とその配置、傾斜地という地形に対するバリアフリールートの整備、地下鉄との結合など、地域が立案した構想との整合を図り、地域の要望に応える公共空間を創出している。また、大きな開発でありながらも、地域の歴史や文化、景観的要素を丁寧に計画に織り込んでいる。</p> <p>2006年策定の「神田駿河台地域まちづくり基本構想」では、この敷地はエリア内ではあるが具体的な記述がほとんどない。それにも関わらず、事業者と地元行政、地域の協議会が、その基本構想の考え方を拡大・応用し、調整して構想を実現させたことも高く評価できる。よって日本都市計画学会計画設計賞に値すると判断した。</p>

計画設計賞	
受賞者	札幌市、三井不動産株式会社、日本郵便株式会社、小林英嗣、株式会社日本設計
作品名	札幌北3条広場を中心としたパブリックスペースネットワークの形成 -都市空間の歴史的価値を踏まえた公共空間の再編-
授賞理由	<p>本事業の最大の特徴は、タイトルにある「パブリックスペースネットワーク」に認められる。札幌という気候風土のなかで、室内、地下をふくめたシームレスな公共空間のネットワーク化をはかり、そこに拠点性の高い機能を創出、整備したことの意義は非常に高い。また、札幌という東西南北の明快なグリッド構造を持つ都市にあって、強い南北動線軸である駅前通りから、シンボリックな都市景観軸である東西方向の赤煉瓦庁舎とそこへ向かう北三条の通りが、本事業によって文字通り立体的に結節され、都心の核としての中心性が創出されている。</p> <p>都市構造と歴史的な文脈に素直に従いながら、多数の関係主体の参加と協力によって実現した優れた都市計画に基づく事業であり、その実現のための粘り強く総合的な計画、デザイン、マネジメントの実践は、日本都市計画学会計画設計賞に値するものと判断した。</p>

計画設計賞

受賞者	遠山敬介、真野洋介、野田明宏、渡邊享子
作品名	横丁からふたたび、あたらしい「マチ」をつくる -3.11からの共同化再建プロジェクト COMICHI 石巻-
授賞理由	<p>本事業は、東日本大震災の津波被害により、大きな被害を受けた宮城県石巻市中心市街地における4名の地権者による共同化建築物を中心としたプロジェクトである。この事業の特徴は、「横丁」という身の丈スケールによる空間整備を具現化することでスピーディにまちなか再生の動きを興したこと、また、地域とそこに営み集う多くの人々の資源や可能性を引き出すことで、復興、活性化に寄与したことである。とりわけ、評価すべき点として、①横丁の特質を活かすとともに、まちに開かれた魅力的な空間を創出したこと、②民間復興モデルとなるような事業計画を提案したこと、③まちを巻き込むプロセスと、持続性を配慮したマネジメントプログラムを展開していることなどがあげられる。</p> <p>以上の計画、設計、事業、管理などの一連の空間形成における実績やこれにかかわるまちの復興と活性化の試みは、都市計画の進歩、発展に大きく貢献をしたといえ、日本都市計画学会計画設計賞に値すると判断した。</p>

計画設計奨励賞

受賞者	山元町、札幌市、株式会社オオバ、鈴木光晴、星卓志
作品名	宮城県山元町におけるコンパクトシティを目指した復興計画策定 -札幌市における対口支援の効果的活用-
授賞理由	<p>本作品は、東日本大震災で多大な被害を受けた宮城県山元町における復興計画策定である。震災前のスプロール状態の解決と持続可能なまちづくりのために JR 常磐線を内陸部に移設、2 箇所の新駅周辺に防災集団移転促進事業による新市街地整備を集約することによりコンパクトシティの実現を目指す点に特徴がある。</p> <p>コンパクトシティの実現は山元町が復興計画策定に取組んだ当初からの方針で、これを一貫して堅持し、多様な関係者の重層的な支援体制のもとに計画策定に至ったことは評価できる。また札幌市の対口支援による効果的な支援のもとに進められた点にも特色を見いだせる。</p> <p>被災地域の各自治体で復興事業が進展する中であって、山元町においては復興計画に基づく各種事業の実施によりコンパクトシティの実現化が期待でき、また今回の先駆的な取組みは将来の大規模災害時の復興に際し参考となり得ることから、日本都市計画学会計画設計奨励賞に相応しいと判断した。</p>

日本都市計画学会 特別功勞表彰 功績賞・国際交流賞受賞者

(受賞者敬称略)

<功績賞>

廣島 康裕 豊橋技術科学大学名誉教授

日本都市計画学会

特別功労表彰 功績賞・国際交流賞 選考経過

2016年日本都市計画学会特別功労表彰 功績賞・国際交流賞は、理事・監事・会長アドバイザー会議メンバー各位に候補者の推薦を募ったところ、功績賞候補者1名の推薦があった。これを受け、表彰委員会（特別功労表彰選考分科会・委員全10名）が慎重に検討した審査結果を理事会に諮って、功績賞1名の授賞を決定した。

(参考)功績賞の授賞対象

功績賞

長年にわたって、都市計画学の進歩、発展に寄与してきた者で、その貢献が、社会的、学問的に見て顕著な者を対象とする。

功績賞

受賞者 廣島 康裕（豊橋技術科学大学名誉教授）

授賞理由

廣島康裕氏は、長年にわたり、本会会員として都市計画及び交通計画等の分野で理論研究並びに実務への応用に関する研究を行った。名古屋大学及び豊橋技術科学大学において教育・研究に携わり、多くの都市計画・交通計画技術者や研究者を輩出してきた。また、創設間もないフィリピン大学交通研究センター(NCTS)へJICA 長期専門家として派遣され、同大客員助教授として教育研究に従事された。派遣終了後も、ASEAN 地域の交通研究、人材の育成に努められ、豊橋技術科学大学でも多くの留学生の指導を行った。

本会活動においては、中部支部幹事長、副支部長を歴任されたのち、平成 23 年 5 月から 2 年間、理事・中部支部長として支部活動の充実に大きな成果を残してきた。毎年開催する中部支部研究発表会において、①論文内容、講演技術の向上、②学生・大学院生を含む若手の研究者や技術者の参加意欲の向上、③支部研究発表会全体の活性化、④会員数の増加を目的として「優秀講演者表彰」を創設したこと等は、特筆に値する。

社会的活動においても、愛知県・静岡県の各地域で、都市計画、交通計画に関する審議会・委員会の指導的役職を歴任している。

以上のように、廣島氏は、本会活動並びに都市計画分野の学術、教育、社会的活動の分野において、都市計画の発展に寄与した功績が顕著であり、功績賞を授与するに相応しいと判断した。

日本都市計画学会 2015 年年間優秀論文賞受賞論文

(受賞者敬称略)

地方中核都市における空き家の発生パターンに関する研究

山下 伸、森本 章倫

障害者のバス利用の現状把握とニーズを考慮した交通手段の検討

-愛知県日進市をケーススタディとして-

伊藤 真章、松本 幸正、鈴木 温

シンガポールにおける“ガーデン・シティ”から“シティ・イン・ア・ガーデン”への展開時の緑地計画の変化

武田 重昭、朴 秀日、徳野 みゆき、加我 宏之、増田 昇

総合設計制度創設における制度設計の論点と課題

-総合設計委員会の議論・答申および許可準則・技術基準に着目して-

中西 正彦、大澤 昭彦、杉田 早苗、桑田 仁、加藤 仁美

人口減少フレーム下での区域区分定期見直しの実態とあり方に関する研究

田之上 貴紀、松川 寿也、佐藤 雄哉、中出 文平、樋口 秀

介在機会モデルを導入したフロー捕捉型配置問題

松尾 太一郎、田中 健一、栗田 治

日本都市計画学会

2015 年 年間優秀論文賞 選考経過

2015 年年間優秀論文賞は、当該年の 1 月から 12 月に発表された、発表会論文 152 編・一般研究論文 23 編、計 175 編の中から優れた内容を有する論文を学術委員会にて慎重に検討を重ね、授賞候補を選定した。さらに候補選定結果を理事会に諮って、6 編の授賞が決定した。

(参考)表彰対象

1. 表彰対象

論文

2. 表彰のための選考対象となる論文

表彰当該年の 1 月から 12 月に発表された発表会論文及び一般研究論文

論文名	地方中核都市における空き家の発生パターンに関する研究
著者	山下 伸・森本 章倫
授賞理由	本論文は、空き家の発生パターンをロジスティック曲線で近似して、空き家率の時系列変化を分析するとともに、パラメーターの変化と地域特性との関連を把握したものである。評価できる点としては、都市全体を対象とした空き家の実態把握のために、水道利用状況データを活用している点が挙げられる。本論文では、水道の閉栓期間に着目して定義された空き家データを用いることの可能性と課題が提示されている。時宜を得た論文であるとともに、空き家の実態把握およびその動向予測の手法にかかわる有用な示唆を得ており、今後の研究の展開が期待される。

論文名	障害者のバス利用の現状把握とニーズを考慮した交通手段の検討 -愛知県日進市をケーススタディとして-
著者	伊藤 真章・松本 幸正・鈴木 温
授賞理由	本論文は、障害者に対する調査から移動実態と路線バスを利用できない要因を分析し、障害種別ごとに移動ニーズを示した論文である。評価できる点としては、身体障害者にとどまらず、知的障害者、精神障害者という多様な障害種別に対して調査を行った点が評価できる。第二に、障害種別や介助必要性等の観点から当事者の具体的な利用ニーズに即して障害者移動支援サービスの形態を検討している点は、社会的に有用な示唆を与えているといえる。

論文名	シンガポールにおける“ガーデン・シティ”から“シティ・イン・ア・ガーデン”への展開時の緑地計画の変化
著者	武田 重昭・朴 秀日・徳野 みゆき・加我 宏之・増田 昇
授賞理由	本論文は、シンガポールにおける都市づくりのコンセプトが20年間に“ガーデン・シティ”から“シティ・イン・ア・ガーデン”に展開したプロセスにおいて、緑地計画の内容がどのように変化したのかを分析し、緑地の整備が土地の確保から住民の身近な緑の充実や緑地の連結に変容してきたことを明らかにしたものである。評価できる点としては、1) 分析方法が模範的であるという点。2) シンガポールの緑地計画という挑戦的なテーマを選定し、かつ得られた結果が日本においても有用な示唆を提供している点。3) 計画書の分析だけでは得られない知見を地道な現地調査によって得ている点である。

論文名	総合設計制度創設における制度設計の論点と課題 -総合設計委員会の議論・答申および許可準則・技術基準に着目して-
著者	中西 正彦・大澤 昭彦・杉田 早苗・桑田 仁・加藤 仁美
授賞理由	本論文は、総合設計制度創設経緯について、建設省関連委員会の委員構成、空地についての議論、そして形態規制についての議論の過程を分析し、同制度創設の意義と論点を今日的な観点から考察したものである。各分科会の委員の発言を1つ1つ論じ切るとともに、当時の担当者へのインタビューによる振り返りも含めて整理している。この中で、性能規定論にも通底する「実効型基準」の一般規制への導入・置き換えの困難さを指摘し、それを担保する仕組みの必要性を論じている点は、関連諸制度の今後を見据える上で有効な示唆を与える研究として高く評価される。

論文名	人口減少フレーム下での区域区分定期見直しの実態とあり方に関する研究
著者	田之上 貴紀・松川 寿也・佐藤 雄哉・中出 文平・樋口 秀
授賞理由	本論文は、地方圏の区域区分実施都市を対象に、区域区分の定期見直しの実態を把握し、人口減少下での定期見直しのありかたを提言した研究論文である。人口減少時代における都市圏の再編は社会的に重要な課題であるが、区域区分の設定はその課題に大きく作用するものであり、本研究のテーマはまさに時宜を得たものである。また、論証において調査およびその考察が丁寧に行われているため知見の有用性が高く、その結果、現実的な予測に即した人口フレーム設定とそのためのガイドラインの必要性といった提言が説得力を持つものとなっている。有効な示唆を与える研究として高く評価される。

論文名	介在機会モデルを導入したフロー捕捉型配置問題
著者	松尾 太一郎・田中 健一・栗田 治
授賞理由	本論文は、FCLP (Flow Capturing Location Problem : フロー捕捉型配置問題) について、施設利用者の確率的な施設選択行動を組み込んだ新たな問題として定式化した上で、その最適解について論じたものである。評価できる点としては、第一に、介在機会モデルに基づいたモデルを構築することで扱いやすい問題に整えることに成功しており、新たな研究が追随する可能性を有している点がある。第二に、警備員の配置問題などの題材に適用できる方法を提示しており、安心・安全な社会の実現へ向けて有用性を期待できる点がある。